



| | | |
|-------|------------------------|----|
| 1. | 一般説明 | 3 |
| 1.1 | 本取扱説明書に関して | 3 |
| 1.1.1 | 取扱説明書の使い方 | 3 |
| 1.1.2 | 著作権 | 4 |
| 1.2 | 安全情報 | 5 |
| 1.2.1 | 一般安全情報 | 5 |
| 1.2.2 | 使用に関する安全情報 | 6 |
| 1.2.3 | メンテナンス・故障対策・洗浄に関する安全情報 | 7 |
| 1.2.4 | 管理者の義務 | 7 |
| 1.2.5 | 訓練に関する情報 | 8 |
| 1.2.6 | スタッフへの要求 | 8 |
| 1.2.7 | AFT 消火装置の取扱で発生し得る危険 | 8 |
| 1.2.8 | 使用規定 | 9 |
| 1.2.9 | 圧力容器に関する一般規定 | 10 |
| 2. | 技術データ AFT10/01 | 10 |
| 2.1 | 消火薬剤 | 11 |
| 2.2 | 圧力源 | 11 |
| 2.3 | 空気ボンベ | 11 |
| 3. | 機能／構成 | 12 |
| 3.1 | 安全装置 | 13 |
| 4. | 運搬 | 13 |
| 5. | 使用 | 14 |
| 5.1 | 制御装置 | 14 |
| 5.2 | 使用開始 | 14 |
| 5.3 | 使用 | 15 |
| 5.4 | 使用停止 | 16 |
| 5.5 | AFT 消火装置への消火剤充填 | 16 |
| 5.6 | 空気ボンベの交換 | 18 |
| 5.7 | クリーニング | 19 |



| | | |
|-----|--------------|----|
| 6. | メンテナンス | 20 |
| 6.1 | メンテナンス作業 | 20 |
| 6.2 | 検査及び充填規定 | 21 |
| 6.3 | 検査範囲 | 21 |
| 6.4 | 空気ボンベのメンテナンス | 23 |
| 7. | 故障対策 | 23 |
| 7.1 | 故障の検査・修理 | 23 |
| 7.2 | 修理 | 24 |



1. 一般説明

この章は、本取扱説明書に関する情報及び、標準型 **AFT10/01 消火装置** の取扱に関する安全情報を含みます。

技術上の変更及び特殊仕様の権利は AFT が保有します。

1.1 本取扱説明書に関して

本取扱説明書は、**AFT 消火装置**の、ユーザーマニュアルです。

- 本取扱説明書に含んでいる全ての情報、データ及び規定を厳守してください。本取扱説明書は、この消火装置を安全で効果的に使用するために書かれたものです。

AFT は消火装置の技術改善を随時行う場合があります。そのため、本取扱説明書に記載されている写真、内容など、お客様の手元にある **AFT 消火装置**と異なる場合があります。

1.1.1 取扱説明書の使い方

本取扱説明書は、**AFT 消火装置** をご理解いただき、その目的に従って正しく使用するために書かれたものです。

本取扱説明書は、**AFT 消火装置** を安全、適切、効果的に使用するための重要な情報を含みます。その内容に従っていただき、不適切な使用による危険を避け、故障と修理費用を軽減し、**AFT 消火装置** の信頼性を高めて長くご使用いただきたいと思います。

本取扱説明書には、事故防止及び環境保護に関する国内規定情報(例：高圧ガス保安法等)を添付してください。

使用者は本取扱説明書に加えて、使用される現場・目的に沿った作業指示書等を添付して訓練してください。

簡易取扱い説明書(ステッカー)は、**AFT 消火装置**によく見える位置に添付してください。



AFT 消火装置の全ての使用者は本取扱説明書を読み、理解しておくことが必要です。使用者とは下記が含まれます：

- 消火する人
- 消火薬剤・空気ボンベの設置作業（廃棄作業を含む）を行う人、
- 管理者が指定した業者（例えば環境・安全担当）、
- メンテナンス作業員（メンテナンス、点検、保全）
- 本取扱説明書及び使用される国・地域で要求される、事故防止及び環境保護に関する法律並びに現場における安全・環境規則も厳守してください。

1.1.2 著作権

本取扱説明書は不正取引防止法のための書類でもあります。その著作権は、

Advanced Firefighting Technology GmbH

Heggenkamp 15

D - 49163 Bohmte

が保有します。

本取扱説明書は、AFT 消火装置の管理者及びその使用者のためのものです。 Advanced Firefighting Technology GmbH からの文書による許可を得ずに、本取扱説明書の文書及び写真を含む、その全部または一部を

- 写真複製
- 配布または
- その他の方法で第三者に知らせることは禁止されています。

1.2 安全情報

AFT 消火装置は、技術規定及び安全規則に従って製造されています。安全情報及びそれ以降の章に含んでいる指示を必ず守ってください。守らない場合、AFT 消火装置や他の財産に損害が発生することがあります。本取扱説明書に記載されている以外の使用はしないで下さい。

特に危険の原因となる状態は、下記の記号の**太文字斜体**で示されています。



禁止

不正な取扱いによる危険。この記号は、禁止されている取扱いを示しています。



注意

生命・身体の危険の恐れがあることを示しています。この記号では、その危険性について警告するための状況を示しています。

AFT 消火装置を使用する際、安全指示及び下記の取扱説明を無視した結果、発生した損害の責任をAFTは負いかねます。

1.2.1 一般安全情報



- **AFT 消火装置に取り付けてある安全装置及びステッカーを取り外す又は変更することは禁止されています。**
- **独断での修正を加えることは禁止されています**
- **危険をもたらす全ての作業方法は禁止されています**
- **安全に関わる AFT 消火装置の異常、又は本消火装置の作動に異常が認められた場合は AFT 消火装置を直ちに停止させて故障を管理者に通知してください**
- **AFT 消火装置は、第2章「技術データ」に記した性能範囲以外で使用しないでください。**



- 火災の際、誰もが AFT 消火装置に貼ってある簡易マニュアルを参照し操作する権限があります
- 本取扱説明書は、AFT 消火装置を使用される場所に置いてください。また警告指示を含む簡易マニュアルがステッカーとして装置に貼ってあります。
- 本装置は損傷しない様管理してください。
- 本消火装置は、技術上の欠陥がある場合、機能上安全な状態でない場合は使用しないでください。又、目的から外れた使用はせず、安全性及び危険性を理解した上で使用してください
- 本消火装置の作業に関わる人は、本取扱説明書、特に安全情報(1.2 参照)を読んでおく必要があります
- 使用される国・現場の事故防止規定を厳守してください
- 電気火災には、電気火災用の消火装置及びその目的で設計されているパーツ以外のものを使用しないで下さい。電気設備に関する規定は厳守してください(1.2.8を参照)。無視すると生命の危険に関わります

1.2.2 使用に関する安全情報



- 空気ボンベに残量計がある場合はその表示にご注意ください。表示されている値が基準から外れる場合には、消火装置を使用はせず、チェックシトラブルシューティングをしてください
- 人体等の消火に使用する場合は、噴霧のみ使用してください。消火銃を口又は目に当てることは禁止されています。また近い距離から人体又は動物を狙うことは禁止されています。



- 本消火装置を使用する前には、その使用によって第三者に危険がないことを確認してください
- 使用する際には完全に充填された状態の場合のみ設定された消火性能を持つことをご理解ください
- 本消火装置をよくご理解ください。使用・訓練をしていない場合は、本消火装置を操作しないで下さい。操作方法、各部品の位置及びその意味や機能を覚えておいてください。
- タンクキャップは、エア抜きバルブを押し、タンク内の圧力を下げてから開けてください。(第5章2節「使用開始」を参照)。
- 使用する前に、電気火災に使用する際には、電気火災用の装置及びパーツが必要であることをご理解ください。電気設備に関する規定は厳守してください(1.2.8を参照)。無視すると生命の危険に関わります

1.2.3 メンテナンス、故障対策、洗浄に関する安全情報



- 修理及びメンテナンス、洗浄作業を行う際には、空気ポンベのバルブを閉にして、タンク内に圧力がかかっていない状態にしてください
- 消火装置のメンテナンス作業を行う時には、空気ポンベのバルブを絶対開けないでください
- 本消火装置のメンテナンスは本書を熟読した上で行ってください。不明な点があれば代理店へ確認ください。

1.2.4 管理者の義務

管理者は、AFT 消火装置に関する作業を以下の人が行うことを確認してください。

- 作業安全及び事故防止の規定を熟知していて、本消火装置の取扱に関する訓練を受けた人。
- 本取扱説明書に記した安全及び警告指示を読んだ人。
- 訓練を受け、操作、洗浄、メンテナンス及び修理の作業分野の担当となっている人。
- 定期的に不具合、危険性、及びその他の不確定要素について学習している人。



管理者には、本取扱説明書に加えて、事故防止及び環境保護に関する一般の法律又は拘束力をもつ規定を守り指示する義務があります。

使用者や管理者が安全性を認識しているかどうかを定期的に確認することが必要です。

1.2.5 訓練に関する情報

AFT 消火装置を十分にご理解いただくために、Advanced Firefighting Technology GmbH の社員（または代理店）による訓練を受け、その訓練を受けたご担当者は、その他の本消火装置に関わるスタッフに指導を行うことができます。

訓練を受けたご担当者、又はその指導を受けたスタッフのみ使用してください。操作、準備、メンテナンス、修理に関するスタッフの担当範囲を明確にしておいてください。

訓練・指導・研修中、又は一般教育を受けているスタッフは、必ず経験のある人の監督下で AFT 消火装置の作業を行うようにしてください。

1.2.6 スタッフへの要求

AFT 消火装置での作業に関わっている全ての人は、作業に入る前に


- 本取扱説明書に記した安全及び警告情報を読んでください
- 安全作業及び事故防止に関する基本規定を守る
- 個人、作業現場に関連する安全装備・服装を身に付け、安全上必要である場合に、それを作業中に使用する

上記十分ご理解願います。

1.2.7 AFT 消火装置の取扱で発生し得る危険

AFT 消火装置は、現行の技術規格及び安全規則に従って製作されていますが、場合によっては AFT 消火装置や他の財産に損害を与えることがあります。

AFT 消火装置の使用は、

| | | |
|---|--------------------|------------------------|
|  | 取扱説明書 技術データ | 第 3 版 第 2 章: 9/24 頁 |
|---|--------------------|------------------------|

- 規定されている範囲に限られています (第 1 章 2 節 8 項参照)。
- 本消火装置に安全技術上の欠陥がない状態に限られています。



- AFT 消火装置が消火効果を完全に発揮するには、消火剤(水又は消火薬剤混合水)が充填されており、全ての安全装置 (安全弁) が機能している必要があります。
- 安全に影響を及ぼす故障がある場合は直ちに修理してください。
- 電気火災には、電気火災用の消火装置及びその目的で設計されているパーツ以外のものを使用しないで下さい。電気設備に関する規定は厳守してください ([1.2.8](#)を参照)。無視すると生命の危険に関わります。

1.2.8 使用規定

AFT 消火装置の用途は、初期消火 (通常火災=A 火災、油火災=B 火災) 及び二次消火作業 (残火処理) や室内及び設備の冷却に限られています。AFT 消火装置には、使用される国または地域で検定を受けている消火薬剤を使用して下さい。訓練の時には、水のみを使用でも問題ありません。空気ボンベには空気呼吸器用空気ガス以外のものを充填しないでください。

AFT 消火装置は、第 2 章「技術データ」に記した性能範囲以外で使用しないでください。その他、その範囲を超える使用はしないで下さい。Advanced Firefighting Technology GmbH は、その結果として発生した損害の責任を負いません。

次の項目も使用規定に含まれています：

- 本取扱説明書に記した指示と規定を守ること、
- 定められている、又は本取扱説明書に記された点検及びメンテナンス作業の期間を守ること。
- 注意:本消火装置は、電圧がかかっている電気設備の火災を消火するために使用することは禁止されています。**無視すると生命の危険となります。**
- 冬季または寒冷地で、放水～再充填を複数回繰り返すと、圧縮空気の冷却作用により、減圧器 (レギュレータ) が凍結し、放水不能になる場合があります。凍結した減圧器 (レギュレータ) を常温に戻すように処置願います。



- 凍結防止のためにドライエアー（の呼吸器用空気ガス）をご使用することを推奨いたします。

1.2.9 空気ポンベに関する一般規定

- 空気ポンベを使用する人には、規則通りの状態に守って使用・管理し必要とされるメンテナンスを直ちに依頼する義務があります。空気ポンベに欠陥が発生してそれによる停止が必要となる場合には、取扱業者へ相談してください。
- 空気ポンベの操作又は管理に関しては、使用される国の相当する国内規定及び法律を守ってください。
- 空気ポンベは、最大許容作動圧力（150 または 300bar）又は決められた最高許容温度を超えてはいけません。
- 安全装置を取り外す又はその規定から外れた変更は禁止されています。
- 空気ポンベが規定通り使用されるように、バルブを閉めることが必要です。バルブの接続面がきれいで欠陥がないことを確認してください。
- 欠陥のあるバルブは使用しないでください。欠陥がある場合は、純正のパーツと交換してください。

2 技術データ AFT 10/01

| | |
|-------------------------------|---|
| 消火銃を含む消火剤を充填した装置の重量、（空気ポンベ無し） | 約 21.5 kg |
| 消火銃の重量 | 約 2.0 kg |
| 装置の寸法（長さ x 奥行 x 高さ） | 約 240 x 460 x 750 mm |
| 消火銃の寸法（長さ x 高さ） | 約 545 x 215 mm |
| タンク充填容量 | 10.0 L |
| 空気ポンベ（容積／圧力） | * 1 / 300 bar |
| 使用中圧力 | 約 7.0 - 7.5 bar |
| 放水距離 | 6.5-7.0 m 60° 噴霧ノズル 10.0-12.0m 15° 噴霧ノズル 16.0-18.0 m 棒状放水 |
| 流量（毎秒） | 0.4 - 0.45 l/s |



| | |
|---------|--------|
| 連続放水時間: | 約 25 s |
| 消火薬剤: | 液体消火薬剤 |

* 空気ポンベはお客様のご希望によります (第2章3節を参照)

2.1 消火薬剤

消火薬剤は液体のものでしたらご使用いただくことができます。消火薬剤の使用方法に関しては、ご使用の消火薬剤のマニュアルを参考にしてください。(消火薬剤は国家検定品を推奨いたします。)

2.2 圧力源

放水のための圧力源として空気呼吸器用空気ガス以外のものを使用しないでください。空気ポンベの充填にはドライエアーを推奨致します。

2.3 空気ポンベ

AFT 消火装置と取り付けているバルブを含む空気ポンベは下記の条件を満たすことが必要です。

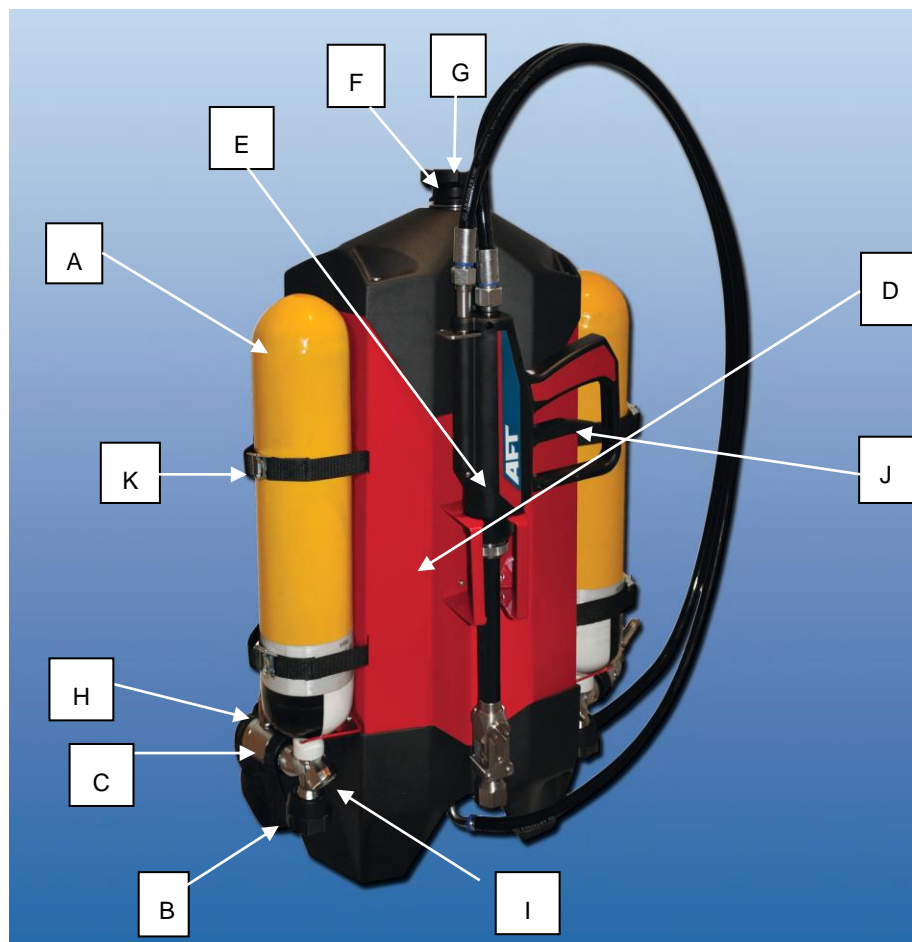
- 圧力機器である空気ポンベおよびバルブは、使用される国及び地域の認証を受けていることが必要です。保証すべき最低条件:

| | |
|--------------|--|
| ポンベの容積: | 最小 300 bar で2 リットル; 300 bar で最大 6.8 リットル |
| マーキング: | 使用される国及び地域の高圧ガス規定の認証 |
| 最大許容圧力: | 300 bar (*空気ポンベの仕様による) |
| 使用許容温度: | +5° C ~ 65° C (又は決められた最高許容温度) |
| 媒体: | 空気呼吸器用空気ガス |
| ポンベバルブとの接続部: | 使用される国及び地域の検定・認証を受けたバルブ |

- 上述の情報が規定通りにポンベに付いていない場合には、AFT 消火装置の使用許容外となります。

3 機能／構成

バルブ (B) 及び減圧器(C) を含む空気ボンベ (A) によって、タンク (D) 及び消火銃 (E) に交換不可能な 2 本の圧力ホースを介して、必要とされる作動圧力が供給されます。消火剤タンクにおける超過圧力を防ぐために、安全弁 (I) を設けています。消火剤を充填するには、エア抜きバルブ (G) が取り付けられているタンクキャップ (F) を取り外すことが必要です。消火銃におけるノズル (E) は、棒状放水と噴霧ノズルに切り替えが可能です。特殊なノズル構造となっているため、ミストが高速で消火銃から放水されます。



| | | | |
|---|-----------------------------------|---|-----------------------|
| A | Compressed air bottle (空気ボンベ) | G | Bleed valve (エア抜きバルブ) |
| B | Bottle valve (空気ボンベバルブ) | H | Safety valve (安全弁) |
| C | Reducer (減圧器) | I | Pressure gauge (圧力計) |
| D | Extinguishing agent tank (消火剤タンク) | J | Trigger (トリガー) |
| E | Gun (消火銃) | K | Strip clamp (ボンベバンド) |
| F | Tank cap (タンクキャップ) | | |

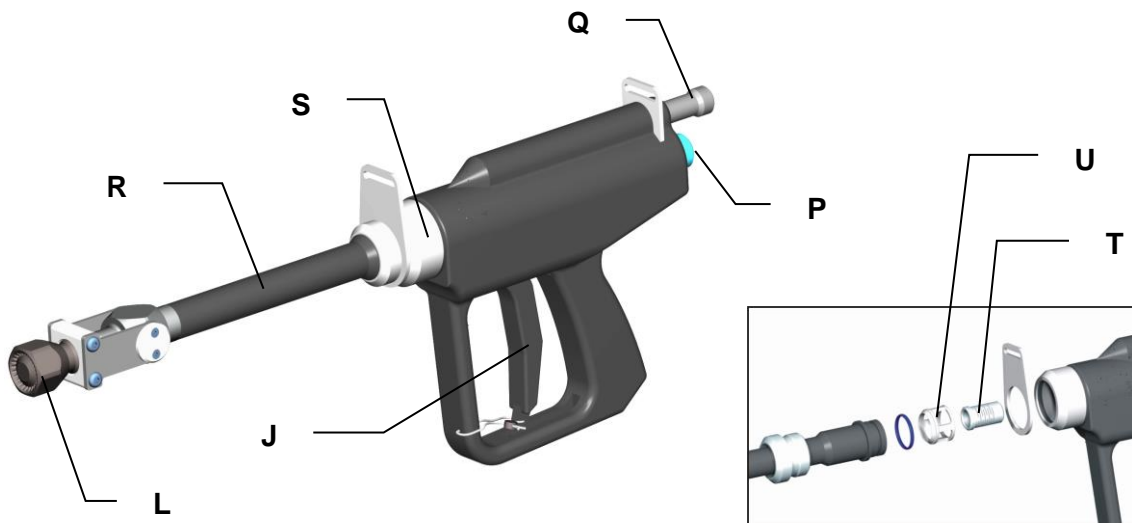


Fig. 0-1 Gun (E)

| | | | |
|---|--|---|----------------------|
| L | Nozzle Tip (ノズルチップ) | R | Nozzle pipe (ノズルパイプ) |
| J | Trigger (トリガー) | S | Screw nut (スクリューナット) |
| P | Extinguishing agent connection (水又は消火薬剤混合水接続部) | T | Filter (フィルター) |
| Q | Compressed air connection (圧縮空気接続部) | U | Spacer (スペーサー) |

3.1 安全装置

- 減圧器 (C) に設置された安全弁 (I)
- タンク (D) カバー下の逆止弁

4 運搬



- 国及び地域の相当する積荷に関する規定を守ってください。

AFT 消火装置を自動車などで運搬する時には、立てた状態で運搬してください。

常に立てた状態で保管してください。また、保管時は常に立てた状態で保管して下さい

5 使用



- 一般安全情報を守ってください（第1章2節1項参照）
- 使用に関する安全情報を守ってください（第1章2節2項参照）

AFT 消火装置は、規定以外の使用は禁止されています（第1章2節8項参照）。

その場合、AFT 消火装置の運用状況によって、特別な規定及び安全情報が適用されます。運用状況として

- 使用
- 充填
- メンテナンスがあります。

5.1 制御装置

安全対策のための制御装置は下記となります。

| | | | |
|---|-----------|---|--------------|
| B | 空気ポンベのバルブ | H | 安全弁 |
| E | 消火銃 | I | 圧力計 |
| F | タンクキャップ | J | トリガー |
| G | エア抜きバルブ | | 逆止弁（タンクカバー下） |

第3章「機能／構成」に表示されています。

5.2 使用開始

作業順序を守ってください：

1. ポンベの充填されている事を確認します。
2. 空気ポンベのバルブを回して開きます。

5.3 使用

作業順序を守ってください

1. 放水パターンをノズルチップ (L) で選択します (噴霧もしくは棒状放水)。
 - 1.1 棒状放水は、ノズルチップ (L) を緩めて外します。
 - 1.2 ノズルチップをノズルパイプの縦軸に対して直角に折ります。
 - 1.3 噴霧放水は、ノズルチップをノズルパイプに締めこみます。
 - 1.4 ノズルチップを確実に締める。(逆噴射に注意して下さい。)
2. 消火銃 (E) におけるトリガー (J) を引いて放水します。

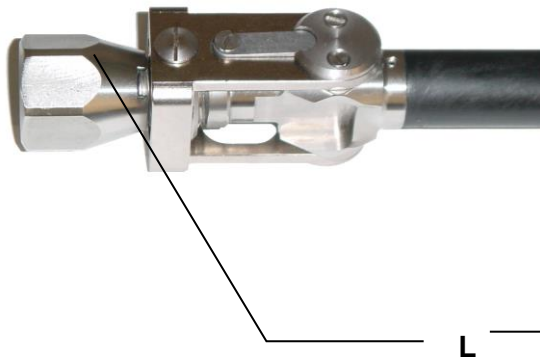


図. 0-1 噴霧放水時のノズルチップ位置



図 0-2 棒状放水時のノズルチップ位置

5.4 使用停止

作業順序を守ってください。

1. 本消火装置の使用後、空気ボンベ (A) のバルブ (B) を閉める。
2. 消火剤と残圧がなくなるまでトリガー (J) を作動させる。
3. 消火剤タンク (D) の残圧を抜くため、赤いエア抜きバルブ (G) を押す。



使用後、残圧を抜く際には、必ず放水銃の筒先を下に向けて行ってください。放水銃の筒先を上に向けたまま残圧処理をすると、エアホース (減圧器と放水銃の間のホース) にノズル内に残った消火薬剤混合水又は水が流れ込むことがあります。

外気温・空気ボンベの空気の質にもよりますが、高圧空気が減圧される際に結露が生じ、空気ボンベ 1 本の使用で 5~10cc 程度の水が発生することがあります。

使用後は、エアホースと減圧器の接続金具を取り外して水を抜き、ホース内に水が入っていない状態にしてから再度取り付けてください。

5.5 AFT 消火装置への消火剤 (水又は消火薬剤混合水) 充填



- 本消火装置の消火剤充填作業は、訓練を受けたスタッフが行って下さい
- AFT 消火装置を清潔に保って下さい

作業順番を守ってください：

1. 空気ボンベのバルブ (B) を閉めます。
2. エア抜きバルブ (G) を押すことによって消火剤タンク (D) に圧力がかかっていない状態にします。

3. タンクキャップ(F)を緩めて外します。
4. 消火剤を消火剤タンクに充填します。
(消火薬剤の充填はご使用される消火薬剤の取扱い説明書にしたがってください。
水と混合させる消火薬剤をご使用の場合はバケツ等で混合させたのちタンクに充填
することをお勧めいたします。)
5. タンクキャップ(F)を手で回して締めこみます。
6. 空気ポンベの充填圧を確認して、使用可能な状態であることを確認します。
7. 各接続部に緩みがないことを確認します。



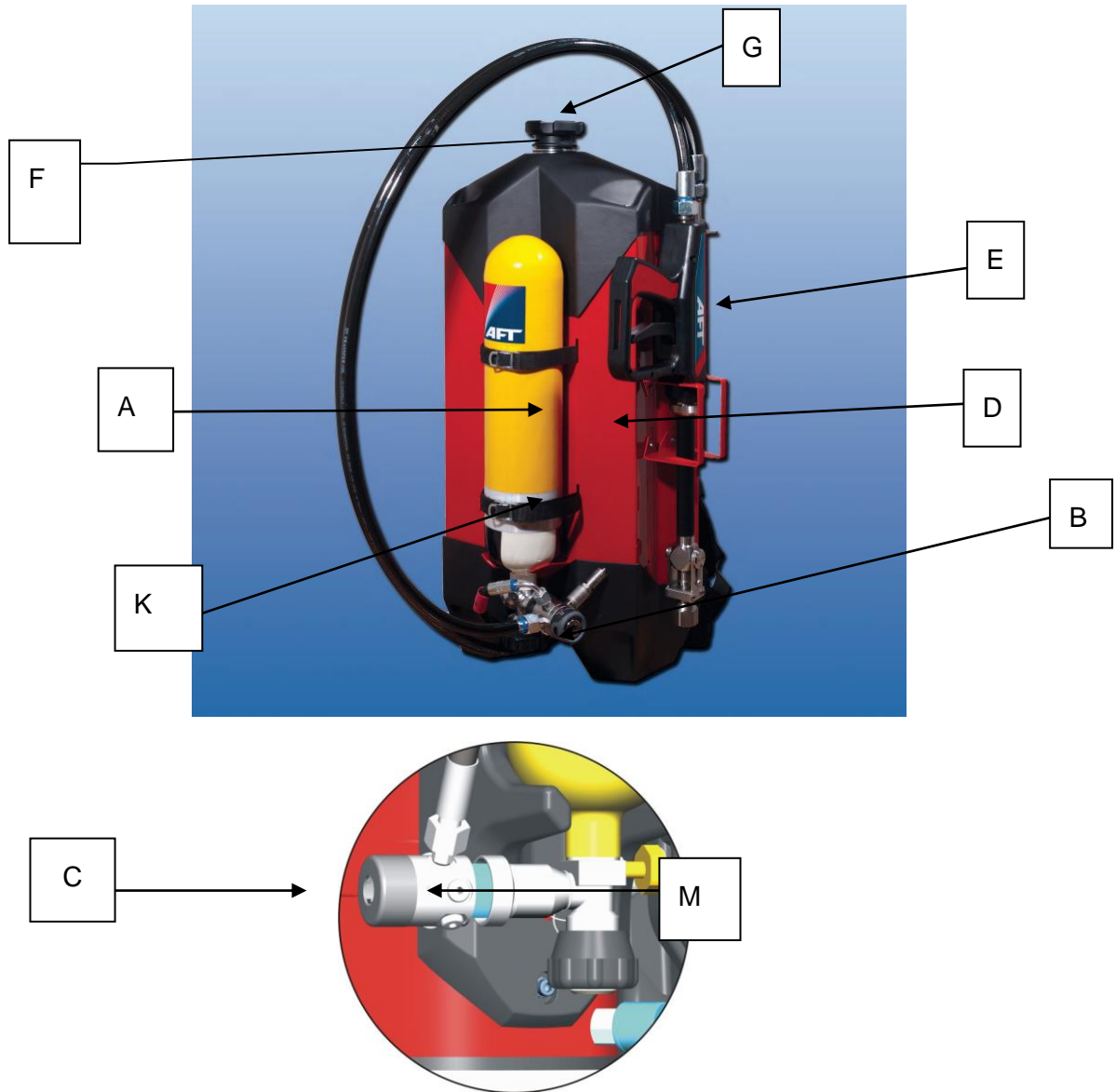
- 水は、本消火装置を使用した後に必ず充填してください。
- 空気ポンベは、閉にしてください。使用される際に開けてください。
- 空気ポンベの使用は使用する国及び地域の規定を守ってください。
- 消火装置を使用した時に残った消火薬剤混合水を再び使用することはお勧めしません。

消火作業中、AFT 消火装置に現場で消火剤を充填することが可能です。

消火装置を使用開始する時には、空気ポンベ内の圧力が十分であることを確認してください。

タンクに充填を行う毎、空気ポンベも交換してください(第5章6節参照)。

5.6 空気ポンベの交換



Replacing the compressed air bottle for the AFT 10/01

作業順番を守ってください

1. 空気ポンベ (A) のバルブ (B) を閉めます。
2. エア抜きバルブ (G) を押すことによって消火剤タンク (D) に圧力がかかっていない状態にします。

3. ボンベバンド (K) を開きます。
4. 減圧器 (C) のコネクタ (M) を緩めます。
5. 空気ボンベ (A) を取り外します。
6. 新しい空気ボンベを取り付けます。
7. 空気ボンベのバルブ (B) における減圧器 (C) のコネクタ (M) を手で締めます。
8. ボンベバンド (K) を閉めます。

5.7 クリーニング



- 本消火装置のクリーニング作業は、訓練を受けたスタッフが行って下さい。
- 本消火装置は、使用毎に必ず洗浄してください。

作業順番を守ってください：

1. 空気ボンベのバルブ (B) を閉めます。
2. エア抜きバルブ (G) を押すことによってタンク (D) に圧力がかかっていない状態にします。
3. タンクキャップ (F) を回して外します。
4. 水を注入します。
5. タンクキャップ (F) を手で回して閉めます。
6. 消火銃 (E) をホルダーから外して取り出します。
7. 空気ボンベ (A) のバルブ (B) を回して開きます。
8. 空気ボンベに残った圧力または新しい空気ボンベで水を噴出します。その時、第 5 章 6 節「空気ボンベの交換」に記した項目にご注意ください。

9. 空気ポンペのバルブ (B) を閉めます。
10. エア抜きバルブ (G) を押すことによって消火剤タンク (D) に圧力がかかっていない状態にします。
11. ノズルパイプ (R) のナット (S) を緩めます。(※注)
12. ノズルパイプ (R) を消火銃の銃身から取り外します。(※注)
13. フィルター (T) 及びスペーサー (U) を取り出します。(※注)
14. フィルター (T) を柔らかいブラシで清浄します。(※注)

組立は、ステップ 11～13 の逆順番で行います。

その後、第 5 章 5 節「AFT 消火装置への消火剤充填」に記した作業を行ってください。

ナット (S) の周辺に海水等が付着した際にも、洗浄作業が必要となります。(※注)

(※注：13/24 ページ、3. 機能／構成の図をご参照ください。)

6 メンテナンス



- 一般安全情報を守ってください (第 1 章 2 節 1 項参照)

メンテナンス、故障対策及び洗浄に関連する安全情報を守ってください (第 1 章 2 節 3 項参照)

6.1 メンテナンス作業

本消火装置を適切に使用するためには、本章に記した手入れ及びメンテナンス作業を守ることが必要です。定期的な手入れとメンテナンスによって製品寿命が長くなり、消火効果も維持されます。

メーカーが認めた材料、消火剤、補助物、原料のみ使用してください。メンテナンス／修理のために全ての必要なスペアパーツは純正品をお使いください。



- メンテナンス作業は添付したメンテナンススケジュールに従って行ってください。
- 作業は、定められた期間内に行ってください。
- 使用する国における国内安全規定を守ってください

6.2 検査及び充填規定

ドイツ規格 DIN 14406、第 4 部又は、本装置が使用される各国の規定に準拠して、定期的、少なくとも 12 ヶ月ごとに本消火装置の機能を確認することが必要です。

圧力容器に関する検査機関は、使用する国の国内規定によります。

6.3 検査範囲

担当分野

| 検査内容 | 検査期間 | | |
|-------------------------------|------------------|-------------|------------------|
| | 後 使 用 後 | 定 期 的 | 業 間 作 業 |
| | 充 | 代 | 専 |
| 外観チェック | 点 | 点 | X |
| クリーニング | X | | |
| 銘板などの明瞭、完全性 | 点 | 点 | X |
| 銘板などの正確性 | | | X |
| 機器、ホース、フィルター及び安全装置 | 点 | 点, 交 | X |
| 塗装 | 点 | 点 | X |
| タンクキャップ、空気ボンベ及び消火銃の封印(使用する場合) | X | 点 | X |



| | | | |
|------------------------------------|---|------|---|
| 樹脂部品の欠陥（破損、変形、割れ、変色、等） | 点 | 点, 交 | X |
| 消火銃の機能確認 | 点 | 点, 交 | X |
| コネクター部(ネジ)のさび・破損などの確認 | 点 | 点 | X |
| 圧力計の機能確認 | 点 | 点 | X |
| 減圧器の機能確認 | | 点 | X |
| 安全弁の機能確認 | | 点 | X |
| タンクキャップのネジ（必要に応じてグリースを塗布） | X | X | X |
| 容器の内面状態 | | | X |
| 安全装置の欠陥 | 点 | 点 | X |
| 密閉箇所及び封印（使用する場合） | 点 | 点, 交 | X |
| 空気ボンベの圧力（圧縮空気、最大 300 bar*ボンベ仕様に従う） | 点 | 点, 交 | X |
| 消火剤及び圧力が流れるホースや配管の欠陥、円滑な流れ | | 点, 交 | X |
| ノズルチップ（棒状放水ノズル）の先端部に傷・トリガー動作チェック | 点 | 点 | X |
| メンテナンス作業・充填後、メンテナンス証明（検査シール等） | | | X |

充 = 充填専門家（消火剤タンクを充填して空気ボンベを交換する人；空気ボンベは取扱い免許のあるスタッフ、または専門の業者によって充填されます。）、

代 = 管理者の代理者（例えば、安全専門スタッフ）、

専 = 専門家（AFT 又は AFT の代理店）、

交 = 交換、点 = 点検、X = AFT または代理店による検査指示に従う検査

6.4 空気ポンベのメンテナンス


高圧ガスの基準に基づいた正しい使用のために、メンテナンスや修理等、必要となる全ての作業は、使用する国及び地域の有資格者である専門業者（例えば、ドイツの場合はテュフ/TÜV となります。）が実施することが必要です。


ご担当の代理店までご連絡してください。相当する専門業者をお知らせします。

7 故障対策



7.1 故障の検査・修理



-  でマークされた故障対策には、空気ポンベのバルブを閉めて、エア抜きバルブを押してタンク内部に圧力をかけていない状態にしてください。
- 本消火装置の安全装置に欠陥がある場合には、使用することは禁止されています。

| エラー | 考えられる原因 | 対策 |
|---------------|---|--|
| 消火剤タンク内に圧力がない | <ol style="list-style-type: none"> 1. 空気ポンベが閉まっている 2. 空気ポンベが空 3. 減圧器の故障 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 空気ポンベを開ける 2. 空気ポンベを交換する 3. AFT または納入業者に連絡 |
| 消火銃が空気をのみ噴き出す | <ol style="list-style-type: none"> 1. 消火装置が横になっている 2. フィルターの汚れ . 3. 消火銃内部の目詰まり | <ol style="list-style-type: none"> 1. 消火装置を縦にする 2. フィルタを清浄する 3. AFT または納入業者に連絡 |



| | | |
|---|---|---|
| 消火剤タンクの圧力が不十分 | 1. 空気ポンペのバルブが完全に開いていない 2. 減圧器の故障 | 1. 空気ポンペのバルブを全開にする 2. AFT または納入業者に連絡 |
| 放水の性能が不十分 | 1. 消火銃のトリガーが完全に引き切れていない 2. フィルターの汚れ  | 1. 消火銃のトリガーを最後まで引く 2. フィルターを清浄する |
| その他のエラー  | | AFT または納入業者に連絡 |

7.2 修理

本消火装置を問題なく正しく使用するためには、修理作業が必要となります。

オリジナルのスペアパーツ・消耗品を使用することにより、予期せぬ危険性から使用者と環境を保護します。

修理作業が行われない又は適切に行われていなかった、オリジナルのスペアパーツ又は消耗品が使用されていなかった際、AFT 消火装置を使用した結果発生する損害の責任を AFT は負いません。